

令和2年度地域包括支援センター事業評価 様式  
( 矢切 )地域包括支援センター

評価指標の定義

- 4: 大変よくできている
- 3: ある程度できている
- 2: あまりできていない
- 1: まったくできていない

# 1. 組織／運営体制

| 評価項目  | 回答欄 | 行政評価 |
|---|-----|------|
| ①地域包括支援センター「事業計画」が適切に作成・実行されているか。   | 4   | 4    |
| ア. 市町村が定める運営方針の内容に沿って、センターの事業計画を策定しているか。  | いる  |      |
| イ. 事業計画の策定に当たって、市町村と協議し、市町村から受けた指摘がある場合、これを反映しているか。                                 | いる  |      |
| ウ. 市町村の支援・指導の内容により、逐次、センターの業務改善が図られているか。  | いる  |      |
| エ. 市町村が設置する定期的な連絡会合に、毎回、出席しているか。  | いる  |      |
| オ. 「事業計画」を法人として決定しているか。   | いる  |      |
| カ. 「事業計画」の進捗状況のチェック及びチェックに基づく業務改善を行っているか。<br>(最低月1回チェックしていれば「いる」を選択)                | いる  |      |
| キ. 重点項目 5つの重点項目について、前年度事業評価より業務改善(又は達成)出来ているか。<br>※この重点項目は除く<br>※令和3年度分の評価より対象となる項目 |     |      |
| ②担当する圏域における利用者のニーズの把握を行っているか。   | 4   | 4    |
| ア. 市町村から、担当圏域の現状やニーズの把握に必要な情報の提供を受けているか。  | いる  |      |
| イ. 把握した担当圏域の現状やニーズに基づき、センターの取組における重点項目を設定しているか。                                     | いる  |      |
| ウ. 独自に担当圏域のニーズを把握しているか。   | いる  |      |
| エ. 把握した担当圏域のニーズに基づき、実務実施上の工夫や配慮を行っているか。<br>【令和2年度の取組が対象】                            | いる  |      |

| 特記項目   |
|--|
| <p>「キ」について、業務改善出来た重点項目に○を付ける</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社会資源(住民主体の予防活動、通いの場、サロン、認知症カフェ等)の新規立ち上げ支援団体数</li> <li>・ 高齢者虐待通報先の周知のため、市民の学ぶ機会を提供しているか</li> <li>・ 地域住民からの虐待通報が上がっているか</li> <li>・ 令和2年度、認知症予防プロジェクトを新規に開始したケース件数</li> <li>・ 認知症サポーター養成講座における、65歳未満の地域住民参加者はいるか</li> </ul>   |
| <p>「ウ」が「いる」の場合、ニーズの把握方法を記載【自由記載】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 民生委員からの相談の中で地域に関するニーズの把握を行っている。</li> <li>・ パトワーク参加者等からの地域情報やニーズについて聞き取りを行い職員間情報で共有している。</li> </ul> <p>地域のサロンの協力員や参加者とできる限り会話をするようにしてニーズの把握に努めている。</p> <p>矢切地域地図を職場内にはり、高齢者の生活に必要な資源を色分け、相談があり訪問したケースを独居、高齢者夫婦色分けして印をいれて見える化して課題を抽出する手がかりにしている。</p> <p>ケアマネ勉強会や事業者来所時に矢切地域の情報を聞き取る。</p> <p>開所依頼の相談、介護予防教室のデータをグラフ化するなどで経年で把握そこからニーズを考えるようにしている。</p>                     |
| <p>「エ」が「いる」の場合、その具体的な内容を記載【自由記載】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 認知症徘徊者について個別事例検討会議を行いながら町会や民生員との連携を深めた。</li> <li>・ ごみ出し問題について町会や松戸市で行っているサービスの検討をケアマネジャー含めて検討した。</li> </ul> <p>相談を受けたケースは拒否がない限りはなるべく訪問し、ケアマネにつなぐ際も必ず同行するようにしてケースの情報共有、その後も相談に乗りやすい関係性構築に努めている。</p> <p>権利擁護に関しては消費者相談センターとの連携、市社協へのこまめな相談連携に努めている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 認知症の妻を介護する男性介護者が相談であがってくるようになり、介護者の集いにケアマネの協力も得ながら参加を呼びかけた。</li> </ul> |

|                                       |   |  |      |
|---------------------------------------|---|--|------|
| ③多様なニーズに対応できる知識・経験のある職員の確保・育成を行っているか。 |   | 3  | 2.86 |
| 評価の根拠                                 | ア. 3職種(それぞれの職種の準ずる者は含まない)を配置しているか。(令和2年度4月末時点)                    | いない  |      |
|                                       | イ. 年間を通じて3職種(それぞれの職種に準ずる者は含まない)の必要人数が配置されているか。                    | いない  |      |
|                                       | ウ. 市町村から、年度当初までにセンター職員を対象とした研修計画が示されているか。                         | いる   |      |
|                                       | エ. センターに在籍する全ての職員に対して、センターまたは受託法人が、職場での仕事を離れての研修(Off-JT)を実施しているか。 | いる   |      |
|                                       | オ. 市、県が行う研修にセンター職員が参加しているか。                                       | 全専門職が研修に参加している                                       |      |
|                                       | カ. 職員に対する職場内研修の開催回数(伝達研修は除く)                                      | 17回  |      |
|                                       | キ. すべての専門職の「連携活動評価尺度」の得点  | ① 34点<br>② 36点<br>③ 22点<br>④ 37点<br>合計 129点 / 平均 32点 |      |
| ④利用者が利用しやすい相談体制が組まれているか。              |   | 4  | 4    |
| 評価の根拠                                 | ア. 夜間・早朝の窓口(連絡先)を設置し、窓口を住民にパンフレットやホームページ等で周知しているか。                | いる   |      |
|                                       | イ. 平日以外の窓口(連絡先)を設置し、窓口を住民にパンフレットやホームページ等で周知しているか。                 | いる   |      |
|                                       | ウ. パンフレットの配布等、センターの周知を行っているか。                                     | いる   |      |

|  |
|--|
| 「オ」が「いる」の場合、その研修内容を記載【自由記載】  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・R2/11/7・8 認知症初期集中支援チーム員研修</li> <li>・R3/3/5 介護予防ケアマネジメント研修</li> <li>・R3/3/17・18 地域包括ケア担当職員セミナー</li> <li>・R3/3/18 千葉県高齢者虐待防止対策研修</li> <li>・R3/3/11 千葉県認知症コーディネーター・認知症地域支援員活動報告会</li> <li>・R3/3/18千葉県認知症施策推進セミナー及び市町村チームオレンジ連絡会</li> <li>・R3/3/19令和3年度に向けた認知症初期集中支援チーム事業説明会</li> <li>R3/2/2伴走型支援研修会</li> <li>R3/2/4市町村申し立て研修会</li> <li>R3/2/9オンライン介護予防担当者研修会</li> <li>R3/2/17千葉県認知症コーディネーター・認知症地域支援員フォローアップ研修</li> <li>R3/1/14認知症予防ちばコグニサイズ講習会</li> <li>R3/1/20在宅医療・介護連携コーディネーター養成研修</li> <li>R3/1/27困難事例対応法務講演会</li> <li>R2/12/1・7千葉県地域包括支援センター現任者研修</li> <li>R2/12/18千葉県キャラバンメイト養成研修</li> <li>R2/11/10 10・29通いの場のオンライン推進事業説明会</li> <li>R2/10/28千葉県キャラバンメイトスキルアップ研修</li> <li>R2/9/17コロナ禍におけるオレンジバトウオークの活動者に対する研修会</li> <li>R2/8/18地域包括支援センター合同研修</li> <li>R2/7/14千葉県キャラバンメイトスキルアップ研修</li> <li>R2/7/16・17地域包括支援センター新任者研修</li> <li>R2/7/31松戸市高齢者施設向け新型コロナウイルスオンライン講習会</li> </ul> |
| /  |

|                                  |   |    |   |
|----------------------------------|---|----|---|
| ⑤個人情報保護の徹底を行っているか。               |   | 4  | 4 |
| 評価の根拠                            | ア. 個人情報保護に関する市町村の取扱方針に従って、センターが個人情報保護マニュアル(個人情報保護方針)を整備しているか。 | いる |   |
|                                  | イ. 個人情報が漏えいした場合の対応など、市町村から指示のあった個人情報保護のための対応を、各職員へ周知しているか。    | いる |   |
|                                  | ウ. 個人情報の保護に関する責任者(常勤)を配置しているか。                                | いる |   |
|                                  | エ. 個人情報の持出・開示時は、管理簿への記載と確認を行っているか。                            | いる |   |
| ⑥利用者の満足度向上のための適切な苦情対応体制を整備しているか。 |   | 4  | 4 |
| 評価の根拠                            | ア. 市町村の方針に沿って、苦情対応体制を整備し、苦情内容や苦情への対応策について記録しているか。             | いる |   |
|                                  | イ. センターが受けた介護サービスに関する相談について、市町村に対して報告や協議を行う仕組みが設けられているか。      | いる |   |
|                                  | ウ. 苦情対応窓口に関する情報(連絡先、受付時間等)を公開しているか。                           | いる |   |
| ⑦プライバシーに配慮した相談環境を整備しているか。        |   | 4  | 4 |
| 評価の根拠                            | ア. 相談者のプライバシー確保に関する市町村の方針に沿い、プライバシーが確保される環境を整備しているか。          | いる |   |

|  |  |  |
|--|--|--|
|  |  |  |
|  |  |  |
|  |  |  |
|  |  |  |
|  |  |  |
|  |  |  |
|  |  |  |
|  |  |  |
|  |  |  |

## 2. 総合相談支援業務

| 評価項目  | 回答欄                                | 行政評価 |
|---|------------------------------------|------|
| ①地域の社会資源について把握および開発を行っているか。   | 3                                  | 2.6  |
| ア. 地域における関係機関・関係者のネットワークについて、構成員・連絡先・特性等に関する情報をマップまたはリストで管理しているか。             | いる                                 |      |
| イ. 社会資源(住民主体の予防活動、通いの場、サロン、認知症カフェ等)に関するマップを令和2年度内に更新しているか。                    | いる                                 |      |
| ウ. 高齢者支援等を行う介護保険外サービス(配食、見守り、移送、サロン、地域の予防活動等)を行う地域(圏域内・外)の社会資源に繋げた社会資源の数【重複可】 | 圏域内 22 ケ所<br>圏域外 27 ケ所<br>合計 49 ケ所 |      |
| エ. 重点項目 社会資源(住民主体の予防活動、通いの場、サロン、認知症カフェ等)の新規立ち上げ支援団体数。                         | 0 団体                               |      |
| オ. 新規立ち上げ社会資源の運営支援のため、会議に出席した延べ回数。  | 0回                                 |      |
| ②相談内容の把握・分析を行っているか。   | 4                                  | 4    |
| ア. 相談事例の終結条件を、市町村と共有しているか。  | いる                                 |      |
| イ. 相談事例の分類方法を、市町村と共有しているか。  | いる                                 |      |
| ウ. 1年間の相談事例の件数を、市町村に報告しているか。  | いる                                 |      |
| エ. 相談事例解決のために、市町村への支援を要請し、その要請に対し市町村からの支援があったか。                               | いる                                 |      |
| オ. 家族介護者からの相談について、相談件数や相談内容を記録等に残して取りまとめているか。                                 | いる                                 |      |

| 事例・特記項目   |
|---|
| 「エ」の各社会資源の種類・特徴・開催回数(週・月〇回)・立ち上げ支援の方法の詳細情報を記載【自由記載】 |
| 「オ」の各社会資源の種類・会議開催日(〇月〇日)・会議内容等の詳細情報を記載【自由記載】        |

|       |   |   |     |
|-------|---|---|-----|
| 評価の根拠 | カ. 分類別の相談件数<br>(高齢者1000人当たりの件数)   | a.本人又は親族への支援<br>介護に関する相談 1,042件<br>健康・医療に関する相談 1,440件<br>経済的相談 607件<br>介護予防に関する相談 106件<br>家族調整に関する相談 214件<br>権利擁護に関する相談 118件<br>諸制度や地域の社会資源に関する相談 134件<br>安否確認(見守り含む) 524件<br>その他 1,663件<br>総計 5,848件<br>高齢者1000人当たりの件数 1,130.9件  |     |
|       | a.本人又は親族への支援<br>b.本人又は親族以外の機関への支援   | b.本人又は親族以外の機関への支援<br>介護に関する相談 1,020件<br>健康・医療に関する相談 1,064件<br>経済的相談 537件<br>介護予防に関する相談 38件<br>家族調整に関する相談 200件<br>権利擁護に関する相談 144件<br>諸制度や地域の社会資源に関する相談 85件<br>安否確認(見守り含む) 163件<br>その他 1,385件<br>総計 4,636件<br>高齢者1000人当たりの件数 896.5件 |     |
|       | ③相談事例の解決のために、進捗管理や他分野との連携等、必要な対応を行っているか。  | 4   | 3.2 |
| 評価の根拠 | ア. 全ての相談事例について相談受付表を作成し、緊急性を判断しているか。  | いる  |     |
|       | イ. 全ての相談事例において、緊急性に変化がないか、3職種で定期的に確認・共有するしくみを整備しているか。                           | 月1回実施している   |     |
|       | ウ. 全ての相談事例において、必要に応じ他分野との連携を図っているか。<br>※他分野とは、警察、消防などの機関、済困窮や就労、母子関係部署、法律家などを示す | いる  |     |

|  |  |
|--|--|
|  |  |
|  | 「ア」が「いない」の場合、理由を記載   |
|  | 「イ」がいるの場合、具体的内容を記載(頻度、記録の有無など)<br>・毎日朝礼時に新規ケースの概要、情報不足の有無、支援方針について共有と意見交換を行う、また支援中のケースで動きがあったケースの報告や支援方針の確認を行っている。月初に月報提出の際、台帳をもう一度チェックし担当と確認している。 |

|   |  |  |  |
|---|--|--|--|
| 拠 | エ. 解決困難な相談事例を分類し、進捗管理を毎月行い、市(基幹型)に報告する仕組みはあるか。 | 報告する仕組みがあり、緊急度チェックリストに該当したケースは全てモニタリング予定表を市に提出している |  |
|   | オ. 地域で開催される行事等(出張相談窓口も含む)において、相談ブースの開設を行っているか。 | いない  |  |

「ウ」が「いる」の場合、その具体的な連携先、内容を記載【自由記載】

- ・松戸警察署から気になるとの連絡があったケースを訪問、救急搬送することになりその後警察署へ報告、今後も連携の依頼をした。
- ・行政書士事務所
- ・親名義の自宅へ住む精神障害が疑われ、無年金のケースの今後の生活保護以外の生活費を得るための道筋の助言を成年後見サポートセンターに相談しいくつかの方法を提示、家と協力し、本人の同意を得るため連携し支援している。
- ・DASCで3年間関わってきたケースから離れて住む精神疾患をもつ子の相談を受け基幹型相談支援センターへつなぎ不安に感じていたことについて情報提供が受けられたことで(相談員がついていることなど)不安が軽減できた。
- ・松戸市社会福祉協議会

### 3. 権利擁護業務

| 評価項目   | 回答欄 | 行政評価 |
|--|-----|------|
| ①成年後見制度の活用をしているか。  | 4   | 4    |
| 評価の根拠<br>ア. 成年後見制度の市町村長申し立てに関する判断基準が、市町村から共有されているか。                      | いる  |      |
| ②関係機関と連携しつつ、高齢者虐待事例に対して適切かつ迅速に対応しているか。                                   | 4   | 4    |
| 評価の根拠<br>ア. 高齢者虐待事例及び高齢者虐待を疑われる事例への対応の流れについて、市町村と共有しているか。                | いる  |      |
| イ. センターまたは市町村が開催する高齢者虐待防止に関する情報共有、議論及び報告等を行う会議において、高齢者虐待事例への対応策を検討しているか。 | いる  |      |
| ③消費者被害の防止に関する啓発・取組を行っているか。   | 4   | 4    |
| 評価の根拠<br>ア. 消費者被害に関し、センターが受けた相談内容について、消費生活に関する相談窓口または警察等と連携の上、対応しているか。   | いる  |      |
| イ. 消費者被害に関する情報を、民生委員・介護支援専門員・ホームヘルパー等へ情報提供する取組を行っているか。                   | いる  |      |

| 事例・特記項目 |
|---------|
|         |
|         |
|         |
|         |
|         |

|                         |   |  |      |
|-------------------------|---|--|------|
| ④その他、権利擁護に関する取組を行っているか。 |   | 3  | 2.25 |
| 評価の根拠                   | ア. 権利擁護(高齢者虐待防止ネットワークの講演会を含む)に関する講演会の開催回数・参加者数。   | a 開催回数: 4 回<br>b 参加者数: 36 人<br>中央圏域はビデオ収録済で開催できず |      |
|                         | イ. 高齢者虐待防止のため、男性養護者支援(社会資源の育成、社会資源の周知等)を実施しているか。※個別支援は含まない  | 既存資源を活用している                                      |      |
|                         | ウ. 重点項目 高齢者虐待通報先の周知のため、市民の学ぶ機会を提供しているか。<br>※3圏域で開催している市民向け講演会以外の高齢者虐待防止に関する講演会、パートナー講座、講演会DVDの貸出、各会議での研修等が対象。 | いない  |      |
|                         | エ. 重点項目 地域住民からの虐待通報は上がっているか。<br>※地域住民は家族、虐待者、被虐待者、民生委員、近隣住民、知人を指す   | いない  |      |

|   |
|---|
| 「イ」「ウ」が「いる」の場合、その支援方法を記載【自由記載】<br>男性介護者に対して他地区にあるケメンカフェを情報提供したり、介護者のつどいを紹介している。また直接ケアマネを通じて介護者のつどいに誘っていただいたり、お手紙でお誘いするなどした。 |
| 「ウ」が「いる」の場合、その詳細(日時・内容・対象者等)を記載【自由記載】   |

#### 4. 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

| 評価項目                        | 回答欄  | 行政評価 |  |
|-----------------------------|--|------|--|
| ①地域の介護支援専門員の状況把握・連携が図れているか。 | 4  | 4    |  |
| 評価の根拠                       | ア. 担当圏域における居宅介護支援事業所のデータ(事業所ごとの主任介護支援専門員・介護支援専門員の人数等)を把握しているか。   | いる   |  |
|                             | イ. 介護支援専門員を対象にした研修会・事例検討会等の開催計画を策定し、年度当初に、指定居宅介護支援事業所に示しているか。  | いる   |  |
|                             | ウ. 介護支援専門員に対するアンケート・意見収集等について市町村からの情報提供や、市町村による研修会の内容等を踏まえ、地域の介護支援専門員のニーズや課題に基づく事例検討会や、個別事例を検討する地域ケア会議等を開催しているか。 | いる   |  |
|                             | エ. 担当圏域の介護支援専門員のニーズに基づいて、多様な関係機関・関係者(例:医療機関や地域における様々な社会資源等)との意見交換の場を設けているか。                                      | いる   |  |
|                             | オ. 介護支援専門員が円滑に業務を行うことができるよう、地域住民に対して介護予防・自立支援に関する意識の共有を図るための出前講座等を開催しているか。                                       | いる   |  |

| 事例・特記項目 |
|---------|
| /       |



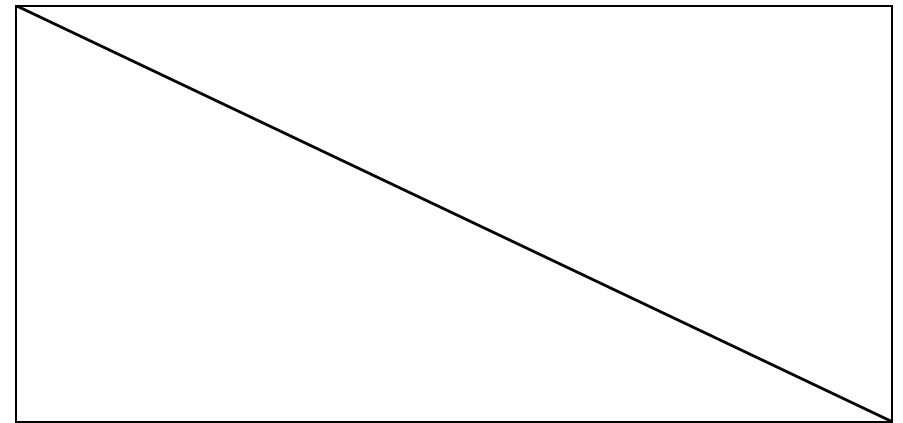
|       |  |  |   |   |   |   |   |   |  |   |  |
|-------|--|--|---|---|---|---|---|---|--|---|--|
|       | カ. 介護支援専門員から受けた相談事例の内容を整理・分類した上で、経年的に件数を把握しているか。   | いる   |   |   |   |   |   |   |  |   |  |
|       | ②地域の介護支援専門員に対して、個別指導・相談・助言を効果的に行っているか。   | 3  | 2 |   |   |   |   |   |  |   |  |
| 評価の根拠 | ア. 令和2年度、1年間における「地域の介護支援専門員を対象にした研修会・事例検討会」の開催回数。  | <table style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>単</td> <td>回</td> </tr> <tr> <td>合</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td></td> <td>回</td> </tr> </table> | 単 | 回 | 合 | 5 | 計 | 5 |  | 回 |  |
|       | 単  | 回  |   |   |   |   |   |   |  |   |  |
|       | 合  | 5  |   |   |   |   |   |   |  |   |  |
| 計     | 5  |  |   |   |   |   |   |   |  |   |  |
|       | 回  |  |   |   |   |   |   |   |  |   |  |
|       | イ. 同行訪問による個別指導・助言の件数<br>(サービス担当者会議への出席は除く)。<br>(高齢者1000人当たりの件数も記載)<br>月報の「3.1)-1ケアマネ同行」の件数       | 合計 57 件 (1000人当たり 11.0 件)  |   |   |   |   |   |   |  |   |  |
|       | ウ. サービス担当者会議への出席による指導・助言の件数。<br>(高齢者1000人当たりの件数も記載)<br>月報の「3.3)ケアマネ支援」「3.3)虐待対応のための実施、出席」を合わせた件数 | 合計 12 件 (1000人当たり 2.3 件)   |   |   |   |   |   |   |  |   |  |

|  |  |
|--|--|
|  |  |
|--|--|

## 5. 地域ケア会議関係業務

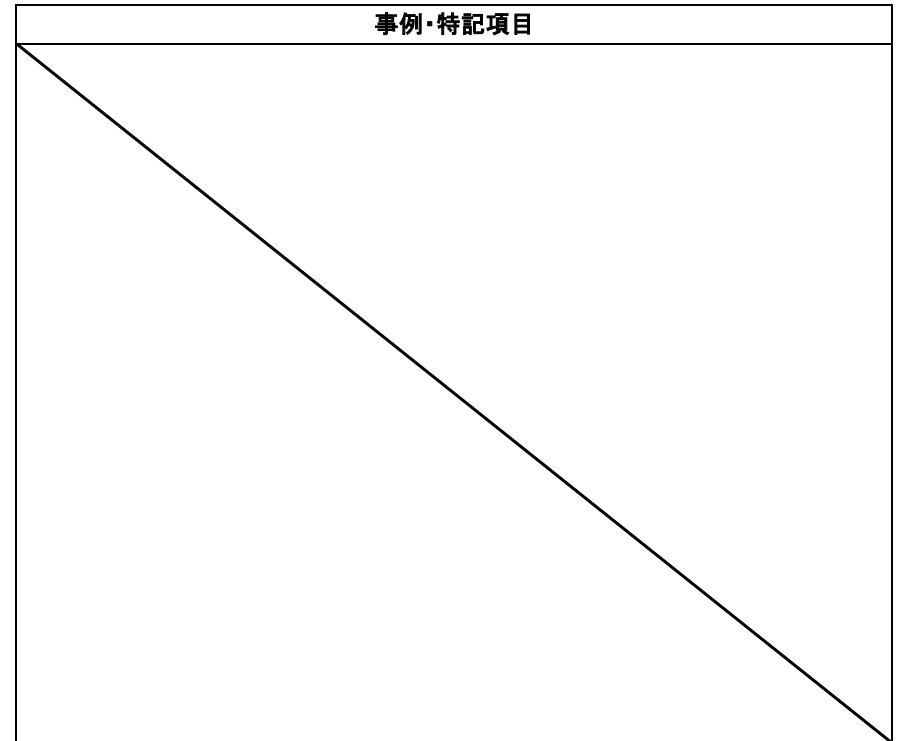
| 評価項目   |  | 回答欄          | 行政評価 | 事例・特記項目   |
|--|--|--------------|------|---|
| ①地域ケア会議の開催を通じて、地域の課題を把握しているか。                                    |  | 4            | 3.83 | 「ク」が「実施している」場合、その具体的方策を記載【自由記載】<br>・個別ケア会議については民生委員からの相談ケースや事業所からの相談ケースを中心に選定するようにしているが、それが難しい場合は事業者に連絡し提供依頼する。本年はコロナの影響で困っているケースがないかを事業所に尋ね提供してもらい専門職からの助言でケースが良い展開が見られた。<br>・推進会議では昨年から取り組んできた「防災」について地区社協、民生から準備についても助言を頂き、事業者勉強会でHUG体験をし、参加者のベースを揃えた上での推進会議が開催されるよう、時間帯も参加者の多い時間に変更して開催し多くの参加者を得て活発な意見交換ができた。 |
| 評価の根拠  | ア. 地域ケア会議が発揮すべき機能、構成員、スケジュール等を盛り込んだ開催計画が市町村から示されているか。                    | いる           |      |   |
|  | イ. センター主催の地域ケア会議の運営方針を、センター職員・会議参加者・地域の関係機関に対して周知しているか。                  | いる           |      |   |
|  | ウ. センター主催の地域ケア会議において、個別事例について検討しているか。                                    | いる           |      |   |
|  | エ. センターの主催の地域ケア会議において、多職種と連携して、自立支援・重度化防止等に資する観点から個別事例の検討を行い、対応策を講じているか。 | いる           |      |   |
|  | オ. 市町村から示された地域ケア会議における個人情報の取扱方針に基づき、センターが主催する地域ケア会議で対応しているか。             | いる           |      |   |
|  | カ. センター主催の地域ケア会議において、議事録や検討事項をまとめ、参加者間で共有しているか。                          | いる           |      |   |
|  | キ. 地域ケア会議で検討した個別事例について、その後の変化等をモニタリングしているか。                              | いる           |      |   |
|  | ク. 地域包括ケア推進会議・地域個別ケア会議の開催に当たって、関係機関等の意見を聴取した上で、議題とする事例やテーマを選定しているか。      | 全ての会議で実施している |      |   |
|  | ケ. 議題とする事例やテーマにあわせて、地域ケア会議の参加者を決定しているか。                                  | いる           |      |   |
|  | コ. 地域個別ケア会議、推進会議において出席できなかった方へ、事例やテーマに即した意見を直接聴取し、会議内でその意見を共有しているか。      | 全ての会議で実施している |      |   |
| サ. 地域個別ケア会議において、介護支援専門員が事例提供を行い、介護支援専門員が会議を通じて支援を受けられる運営を行っているか。 | いる   |              |      |   |
| シ. 地域ケア会議において、写真・映像・用具・マップ等を用いるなどの視覚的な工夫をして、会議を開催しているか。          | 個別、推進の一方で実施している  |              |      |   |
|  |  |              |      | 「ケ」が「いる」の場合に、①当該地域個別ケア会議の事例と②参加した医療・介護関係者以外の関係者の職種を記載<br>①独居で生活保護を受けている統合失調症疑いの高齢者（無銭飲食問題）の方のケース。<br>本人の意思決定支援について学識経験者から精神疾患の方への対応方法や看護の関りについて発言いただき、本人の強み（ストレンクス）を活かす支援について各関係機関で情報共有できた。<br>②学識経験者   |
|  |  |              |      | 「コ」が「実施している」場合、①職種②意見を聴取した方法③ケア会議内での意見反映方法を記載<br>①医師、作業療法士<br>②書類で提出していただけた。<br>③WEB会議で事例について参加者の意見が中断したタイミングで使用させていただき、それによって意見がまた出るようになった。<br>まとめという形でほかの参加者から出なかった意見を代読させていただいた。   |
|  |  |              |      | 「サ」が「いる」の場合、運営方法や工夫点等を記載【自由記載】<br>参加者全員で意見交換を行うことで専門的多角的見地からいろいろな意見が出されるうちに事例提供者が気づきを得られる場になっている。またモニタリングを行うことでその後の相談支援も継続しやすいきっかけとなっている。<br>ZOOMでのオンライン会議を実施したが、密を避けるための人数調整がいらなくなったこともあり、参加者が増え多職種からの意見がいただけるようになった。<br>事例に関係するサービス事業所、民生委員等に個別ケア会議への参加を呼びかけ、顔の見える関係作りが出来るよう働きかけている。                            |
|  |  |              |      | 「シ」が「実施している」場合、その工夫点等を記載【自由記載】<br>・地域ケア会議（テーマ：矢切地区の防災について）において「見える化」を図るため防災時に課題となる坂道や道路状態を写真にてイメージしやすいよう資料作りを行い、アイスブレイク時にクイズ形式で防災についての用具や管轄している機関について写真を用いながらわかりやすいように表した。  |
|  |  |              |      | ※地域包括ケア推進会議での協議後、実際に地域包括が取り組んだ実績があれば記載【自由記載】<br>推進会議で防災についてをテーマにして話し合った後、柿ノ木台小学校での松戸市総合防災訓練に職員全員で参加し、地域住民の方と協力して避難所設営の体験ができた。今後の取り組みに生かしていけると思う。  |

|       |   |    |   |
|-------|---|----|---|
|       | ②3層構造の地域ケア会議の連携を通じて、地域の課題解決を図っているか。           | 3  | 4 |
| 評価の根拠 | ア. センター主催の地域ケア会議において、地域課題に関して検討しているか。         | いる |   |
|       | イ. センター主催の地域ケア会議における検討事項をまとめたものを、市町村に報告しているか。 | いる |   |
|       | ウ. 市の地域ケア会議での決定事項を、必ず地域包括ケア推進会議で報告しているか。      | いる |   |



### 6. 介護予防ケアマネジメント・介護予防支援関係業務

| 評価項目                      | 回答欄   | 行政評価   |  |
|---------------------------|---|--|--|
| ①自立支援に向けたケアマネジメントを行っているか。 | 3   | 3  |  |
| 評価の根拠                     | ア. 自立支援・重度化防止等に資するケアマネジメントに関し、市町村から示された基本方針を、センター職員及び委託先の居宅介護支援事業所に周知しているか。     | いる   |  |
|                           | イ. 介護予防ケアマネジメント・介護予防支援のケアプランにおいて、保険給付や介護予防・生活支援サービス事業以外の多様な地域の社会資源を位置づけたことがあるか。 | いる   |  |
|                           | ウ. 利用者のセルフマネジメントを推進するため、市町村から示された支援の手法を活用しているか。                                 | いる   |  |
|                           | エ. 自立支援型個別ケア会議への出席回数  | 回数：3 回<br>延べ人数：8 人<br>コロナで中央圏域1回は中止となり参加できず。 |  |
|                           | オ. ケアマネジメントC作成件数。   | 0件   |  |



|                                    |  |    |   |
|------------------------------------|--|----|---|
| ②居宅介護支援事業者へのケアマネジメントの委託を適正に行っているか。 |  | 4  | 4 |
| 評価の根拠                              | ア. 介護予防ケアマネジメント・介護予防支援を委託する際の事業所選定の公平性・中立性確保のための指針が市町村から示されているか。 | いる |   |
|                                    | イ. 介護予防ケアマネジメント・介護予防支援を委託した場合は、台帳への記録及び進行管理を行っているか。              | いる |   |
|                                    | ウ. ケアマネジメント業務の委託先選定時に公正・中立性を担保するための工夫を行っているか。                    | いる |   |

「ウ」が「いる」の場合の実施方法を記載【自由記載】

- ①しくみについて相談者に説明したうえで希望がないか、これまで家族や友人で利用されている希望などないか確認する。
- ②なければ包括のケアマネージャーが受託できるときは依頼する。
- ③包括で難しいときは作成している居宅介護支援事業者一覧で介護と予防、総合事業の依頼数など考慮しながら依頼する。
- ④居宅の事業所の形態についても単独、併設などの特徴を説明して了解を得てつなぐようにしている。また相談員間で受託についての状況を共有するようにして中立公正を目指すようにしている。

## 7. 在宅医療・介護連携推進業務

| 評価項目  |  | 回答欄  | 行政評価 |
|---|--|--|------|
| ①医療関係者とのネットワークを活用して、地域における医療的な課題の解決を図っているか。 |  | 4  | 3.5  |
| 評価の根拠                                       | ア. 医療関係者と合同の事例検討会に参加しているか。                             | いる   |      |
|   | イ. 医療関係者と合同の講演会・勉強会等に参加しているか。                          | いる   |      |
|   | ウ. 在宅医療・介護連携推進事業における相談窓口に対し、相談を行っているか。                 | いる   |      |
|   | エ. 地域サポート医へ相談を行った件数【a.相談支援件数・b.アウトリーチ件数】               | a.相談支援件数 2 件（内、サポート医事業 2 件）<br>b.アウトリーチ件数 2 件（内、サポート医事業 2 件） |      |
|   | オ. 在宅医療・介護連携支援センターが開催する研修会にセンター各職員（事務員は除く）が一度は参加しているか。 | いる   |      |

| 事例・特記項目 |
|---------|
| /       |

## 8. 認知症高齢者支援業務

| 評価項目                         |   | 回答欄   | 行政評価 |
|------------------------------|---|---|------|
| ①認知症の早期把握・早期対応を推進しているか。      |   | 4   | 3.5  |
| 評価の根拠                        | ア. 認知症初期集中支援チームと訪問支援対象者に関する情報共有を図っているか。   | いる  |      |
|                              | イ. 地域包括支援センター自身が主体となって認知症初期集中支援チーム事業を実施しているか。   | いる  |      |
|                              | ウ. 地域包括支援センター自身が認知症初期集中支援チームとして実施した事例の件数  | 2件  |      |
|                              | エ. 重点項目 令和2年度認知症予防プロジェクトにおいて、新規に開始したケース件数<br>(高齢者人口1000人当たりの件数)                                       | 8件 / 高齢者1000人当たり 1.5 人  |      |
| ②認知症高齢者に対する地域での支援基盤を構築しているか。 |   | 4   | 2.25 |
| 評価の根拠                        | ア. 「専門職と協力しながらの実践活動」を行った、オレンジ協力員の延べ人数   | 84人   |      |
|                              | イ. センターが開催した全ての認知症サポーター養成講座の開催回数・日程・主な対象者・参加者数。<br>(人口10,000人当たりの参加者数)                                | 【開催回数】 2回 (予定していたボランティアカレッジは中止)<br>【日程】 10月21日、22日 2コマで90分 1月22日 90分<br>【主な参加者】小金高校3年生9名 働く世代の市民2名<br>【参加者数】 11 人 / 10,000人当たり5.7 人 |      |
|                              | ウ. 重点項目 認知症サポーター養成講座における、65歳未満の地域住民参加者はいるか。<br>※認サポアンケートの関係上「50代以下」を集計対象とする<br>※企業向け、小学校～高校生向けは対象外とする | いる  |      |
|                              | エ. 認知症地域支援推進員として、認知症高齢者の社会参加のための取組みを行っているか。   | いる  |      |

| 事例・特記項目   |
|---|
|   |
| 「ウ」が「いる」の場合は、その詳細(65歳以下総参加者数・主な対象者・実施時の工夫点等)記載【自由記載】<br>2名 1名は看取りの往診をしている医療事業所の事務スタッフ 男性40歳代<br>1名は介護士、認知症介助士の資格を取得しこれから働くという女性20歳代<br>2名の参加だったので最初に参加動機を聞き内容について詳しく話す部分の調整をした。   |
| 「エ」が「いる」の場合は、具体的な取組内容を記載【自由記載】<br>他地域包括と合同で本人からインタビューをして「何が今したいか、何がうれしいと思うか」を聞き取り本人ミーティングの準備をしたがコロナで実現せず癒しのコンサートという形をとった。その中で役割を持ち活動した。またパトウオークやサロンで相談で関わった認知症高齢者をお誘いするよう取り組んでいる。 |

9. 松戸市指定事業等

| 評価項目   | 回答欄  | 行政評価 |
|--|--|------|
| ①松戸市指定事業を適切に実施しているか。   | 4  | 3.5  |
| ア. センターが開催する介護予防教室の開催回数及び参加者数。<br>(高齢者1,000人当たりの開催回数・参加者数)             | 【開催回数】 28 回 / 1000人当たり 5.41回<br>【参加者数】 324 人 / 1000人あたり 62.65人   | /    |
| イ. センターが開催する認知症予防教室の開催回数、参加者数及び参加者の活動継続割合。<br>(高齢者1,000人当たりの開催回数・参加者数) | 【開催回数】 8 回 / 高齢者1000人当たり 1.54 回<br>【参加者数】 108 人 / 高齢者1000人当たり 20.88 人<br>【活動継続者割合】 82.3 %<br>※活動継続者割合(%)=活動継続者数(実数)/教室参加者数(実数)×100 |      |
| ウ. ボランティアの育成をしているか。<br>(オレンジ協力員への支援は除く)                                | いる   |      |
| エ. 地域包括支援センター主催による介護者のつどいの開催回数   | 1 回  |      |

評価の根拠

| 事例・特記項目  |
|--|
| <p>「ア」の最も効果的な活動を1つ記載<br/>【教室名】シニアのための転倒予防教室</p> <p>【参加者数】189人</p> <p>【日程】4月コロナで中止、5、6月はフレイル事業での代替え、7/20,8/17,9/7/10/12,11/9,12/14,1/19,2/8,3/8</p> <p>【内容】<br/>タオルを使った健康椅子体操、身体を使った認知症予防、リクレーション体操</p> <p>【効果】<br/>コロナによる人数制限や隔月参加で参加者は減少傾向にはあったが、コロナだからこそ外出し他者と感染防止に注意しながらも交流するまた運動の必要の意義を感じると毎回参加される方もいた。男性参加者も休まず参加されていた。コロナで人と会わなかった特に年末年始に自分の中で変化を感じ受診し包括へ家族と社会参加を継続した方がいいのではと相談に來られ介護保険へ移行した方もいたが自分で変化を感じず相談にこられるという包括のつなぎの場所となっている。</p>   |
| <p>「イ」の最も効果的な活動を1つ記載<br/>【教室名】<br/>歴史を学びながら、歩いて探索し認知症予防</p> <p>【参加者数】<br/>延べ 108名</p> <p>【日程】<br/>9/29,10/7,10/20,10/28,11/5,11/12,11/17,12/10</p> <p>【内容】<br/>3回の歴史の講義(うち2回は本庁、1回は矢切)、1回は基本講演として理学療法士、作業療法士からの認知症とその予防について講義を聞く。4回は学んだ歴史を実際ウオーキングしながら探索して回った。</p> <p>【効果】<br/>テーマが歴史ということもあり男性参加者も多かったり、歩行が長距離は困難な方も講義は聴きに來られ積極的に質問もされていた。実際の探索ウオーキングは寒い季節となったこともあり参加者は減ってしまった。しかし全行程男性参加者の古い友人仲間に参加していた方もあり話題が歴史ということもあり、参加者の間での会話も多かった。「また暖かくなったら歩きたいね」という声もあったが会の世話役を打診すると高齢できついという返事で実現しなかった。自主化する上での「高齢」というのは一つの課題だと感じる。</p> |
| <p>「ウ」が「いる」の場合、育成内容を記載【自由記載】<br/>例年介護事業所をお借りして順番に回り介護者の集いを開催していたが、今年は事業所では開催できず、総合福祉会館で開催した。広報で知った地域外のの参加者2名、包括で関わってきた認知症の妻を介護する夫に声をかけさんかしてもらったが、認知症の夫の介護が終わった方、まさに在宅介護にするか施設介護か迷っている方、3年目という認知症の妻を介護する夫と立場は違うがそれぞれの立場を思いやりながらコロナ禍というこれまで経験のない環境にも揺れながらの介護観のやりとりを包括は聞かせていただいた。看多機の情報提供はしたが、直前に認知症の家族の会に参加させていただき、それを参考に自己紹介をした以降は包括はほとんど役割はなく、溢れ出すようにお互いの気持ちを聞きあい共感し共有し、なにかすっきりした表情で帰られたのが印象的だった。経験ほど大きな共感力はないなと感じた。</p>   |
| <p>「エ」が「いる」の場合、開催内容を記載【自由記載】</p>   |

|   |    |   |
|---|----|---|
| ②生活支援コーディネーターや協議体と連携した取組を行っているか。  | 4  | 4 |
| <p>評価の根拠</p> <p>ア. 生活支援コーディネーターや協議体・地域における高齢者のニーズや社会資源について協議をしているか。</p> | いる |   |

